

令和元年度湖西市未来ビジョン会議 会議録

開催日時	令和元年 7 月 29 日（月） 14：30～16：40		
開催場所	湖西市役所 2 階 市長公室		
委員	（出席者） 10 人 （欠席者） 1 人 ※事務局 4 人		
内 容			
1 開会 事務局 企画部長あいさつ			
2 委員の紹介 各委員の紹介			
3 座長あいさつ（田中副市長） ・湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定経緯について ・湖西市の現状について 地域の特性と浜松三ヶ日豊橋道路（仮称）について 製造品出荷額等における静岡県での湖西市の現状について 湖西市の経済循環の状況について 通勤・通学における流入者数・流出者数の地域別構成割合について 地域所得力について 湖西市の人口構成の課題について			
4 議事 (1) 総合戦略事業の効果検証について ＜事務局＞ 説明 資料1：湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業効果検証シート【平成30年度事業の評価】 資料2：湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧 資料4：評価区分について 湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略 湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子 [基本目標1、2について]			

（質疑・意見交換）

＜大石勝委員＞

この評価そのものは、議会に示したり、市民の皆さんに説明をするためのものということではよろしいか。今回の議論は、評価に対する意見か、指標への意見も含むのか。

＜事務局＞

施策の方向性や事業に関するご意見は、今後の参考とさせていただきたいと思う。指標については、5年前の策定時に定めたものであり、多少現状の意向とは違ってきている部分もあるということを事務局も感じているところである。現在の総合戦略をもとに国の補助金を申請しており、K P I の変更は難しい部分もあるため、現状はこのままで行わせていただき、次期総合戦略の策定時には、職住近接などの特色ある施策を反映させたような指標に替えていきたいと考えている。

＜大石勝委員＞

K P I の評価もあるが、総合評価に対し意見をすることによってよい。例えば、基本目標 1 の評価は A であるが、数値目標の達成状況から、どうしてそうなるのか説明がないと分からない。

＜事務局＞

K P I については、各施策がどのくらい効果が出ているかということの数値的に表したもので、その評価になる。総合評価としては、各施策をやった上で結果としての K P I の評価と、目標全体の成果がどのくらい上がっているかを示す数値目標、事業の成果から総合的に判断した。

＜大石勝委員＞

その評価の基本的な考え方である説明を資料 1 に入れるべき。加えて、個々の基本目標に対して総合的にどう評価をしたか（どうしてこの評価となったか）の説明を文章で記載する必要がある。

＜事務局＞

本日の資料を含め今後公表をする中では、ご指摘の部分を加筆し、分かりやすく示すようにする。

＜飯田委員＞

湖西市に新しい人の流れを作る事業については、日頃から市民協働で取組んでいる、民間が行っている事業、民間に委託されている事業がたくさんあるが、そのような事業が現れてきていない。総合計画で「市民協働で」と書いてあるので、どのように市民協働で取り組んできたかが現れていないので、それが見えるといいと思う。

新居関所周辺は、大河ドラマや台風の影響を受けたというのは正直なところだと思う

が、実際に大河ドラマが終わり、人の流れが戻ってきているかというとなんな雰囲気はない。それを少しずつ取り戻していく必要があると思う。その地域で活動をしている団体と連携しながら取組んでいくことが必要であるのではないか。

<事務局>

1つ目の市民協働については、総合戦略の評価の中では表記に現れていないところはある。総合戦略とは別に総合計画というのがあり、「市民協働」をキャッチフレーズにしている。総合計画についても来年度が最終年度であり、そちらの評価をしていく中で市民とどのような協働を行ったのか、そういった評価をしていく形になるのではないかと思います。総合戦略は人口減少に特化したもので、そのあたりの表現が足りなかったかもしれない。

<飯田委員>

人口減少や交流人口を増やすためにも、民間と一緒に取組んでいるものについてはもっとクローズアップしても良いのではないか。

<事務局>

今後資料を作成するときの参考にさせていただく。

新居関所周辺の流れづくりについても、市としてもいろいろと取組んでいるが、なかなか結果に結びついていないという部分もあると思う。民間としても、最近は古民家を改修して飲食店をオープンするなど、努力をされている方もいらっしゃるので、そういった方の意見や事例も参考にしながら、新しい取組を考えていけたらと考えている。

<飯田委員>

まちづくり活動をする中で、公共施設を活用する形で開放できないかという話を良く聞く。新居関所など史跡なので難しいかもしれないが、他の地域でも建物の統廃合が進む中で、古くなったものを使わなくするのではなく、全国的に抱えている悩みは同じで、柔軟に使いやすく変えている例もあるので、そのようなところを参考にもう少し進めていけるといいのではないか。豊橋市では図書館の前でカフェが出店していたり、公共施設の中にコンビニがあったり、公園もフェスティバルやバルで使いやすくなっているという話をきいている。市民も賑わいを戻したい、流入人口を増やしたいと思っていて、市も取組んでいくという目標があるのに、一緒に行っていくということがなかなかうまく進まないということをよく聞くので、一緒に行っていくチャレンジ事業などができないかなと思う。また、経済活動をしながらでないと市民活動団体や民間団体も活動が続けられないので、金銭の授受があるから公共施設を使用できないというのではなく、自由な経済活動ができる形で公共施設を開放していただけないかと感じている。

<事務局>

施設の利用については、担当部局にご意見を伝えさせていただく。市民協働でのチャ

レンジ事業の話も、大切なことだと思うので、こちらも認識して活動を考えていこうと思う。

<竹島委員>

新しい人の流れの部分で、昼夜間人口差が大きいという分析の中で、所帯を持っている人に移住してもらうのはなかなか難しい。独身の男性女性で湖西市の企業に勤めている人をターゲットに、移住定住施策を行う方がより効果があるのではないかと。市もいろいろ取組んでいる中で、ターゲットをどういう人に絞ってやっていくかを考えてやってもらいたい。また、いいにくい部分があるが畜産臭気対策に関連して、市内にある大手住宅メーカーの開発した宅地で、なかなか売れていないところがある。非常に臭いがきついという話を聞くので、そのようなことも影響しているのかなと感じる。臭気対策は非常に難しいものであると思う。密閉型にしても臭いを完全に除去することは難しいと聞いている。新しい設備等があれば見学に行ってみたいと思うので、教えていただければと思う。

<事務局>

男性が非常に多いという状況の中で、K P I の指標にもなっているが、婚活イベントにも今後力を入れていくところではあるのかなと思う。市としても、昨年度から湖西市商工会青年部、J A と婚活イベントを行わせていただいております、また、今年度は静岡県西部地域の市町が一体となって天浜線を利用した婚活イベントを行うなど取り組みを始めたところである。昨年度から「新婚さん湖西へおいでん」の補助金を始めており、昨年度が31件、今年度は令和の記念婚もあり大変盛況で、現在22件の申請がある状況。補助金をきっかけに湖西市に住んでいただき、湖西市は、ご承知のとおり決して暮らしにくいところではなく、暮らしやすい場所であることを実感してもらい、ゆくゆくは湖西市に定住をしていただけるような施策を今後も行っていけたらと考えている。

畜産臭気対策については、アンケートをとると湖西市に住みにくい理由の大きな部分を占めているのが畜産臭気問題である。移住定住の施策の中で、マイナスの部分をなくしていこうという施策となるが、大変重要な施策として捉えている。静岡県と相談をさせていただき、さまざまな取り組みを行わせていただいているところなので、今後動きがあれば紹介をさせていただく。

<竹田委員>

評価のところで、政策の因果効果とか効果測定というのは非常に難しいものだと思う。なぜなら他の要因がいろいろと入ってくるから。基本目標1の製造品出荷額等のグラフで見ると分かりやすいが、平成25, 26年はアベノミクスが進み、円安が進んだ時期である。湖西市は、輸送用機械や電気機械といった輸出産業のメーカーが多い市なので、出荷額が伸びるということに対し、円安等の外的要因が大きく働く。それに対しK P I は、こ

ういう施策を行えば、数値目標の達成にプラスになるだろうということで設定している。K P Iについても、施策がうまくいき、数値目標にプラスに反映されていたとしても、他の要因が働けば打ち消してしまい、はっきり観測できないということになる。

だからといって、K P Iに対応した施策が無駄だったということではなく、それはK P Iで達成度等の評価をしていかななくてはならない。そのため総合評価の際に、もう少し分かりやすく事業やK P Iについても報告をするほうが理解を得られると思う。数値目標が達成されていないから施策がうまくいっていないとストレートにいく話ではないというところは強調しておきたい。

<事務局>

ご意見のとおり、事務局でも判定に苦慮したところであり、先ほど大石委員からのご意見もあったため、説明を文章化する等分かりやすいように公表をさせていただきたい。

<是永委員>

1点目で、事業所などの話では、従業員が足りているかというと比較的そうではなくて、高校生をターゲットとしたインターンについて、高校1年生から募集しているという、それほど人材がほしいという話を聞く。要は、高校生にこの街を好きになってもらって、将来はこの街で住んで働きたいと思ってもらえるような子が1人でも増えるような取組みを一層やっていければと思う。労働者福祉協議会としてもできるところは協力するので、おいでん祭に限らずご相談いただければと思う。

2点目が、新居関所周辺について、人にたくさん来てもらいたいということで、リピーター対策について考えていければと思う。これもお金がかかるので、市民協働で、例えば少し食べ歩きできる場所があれば、リピーターも増えるのかなと思う。

3点目、市内のあるハウスメーカーが、今までは市内の展示場に常時社員がいたが、今月から平日は常駐しないという状態になった。やはり住宅を建ててもらいたいという中で、ハウスメーカー対策と一緒に考えることができれば、この地にハウスメーカーにいてもらって、この地を知っていただき、この地に家を建てていただくという一緒の仲間となればいいなと思う。

<大石倫委員>

こさいフレンズのところで、L I N Eの発信7件とあるが、配信する件数をもっと増やした方が当地のP Rになるのでいいと思う。例えばイベントなどに参加した人がL I N Eに投稿できるような、もっともっと配信件数を増やせる方法を取れば、市の紹介になるのでいいと思う。

畜産臭気対策は、もっと積極的に補助金・交付金を活用するよう働きかけてもらって、消臭対策をしてもらいたいと思う。養豚が盛んであるということで、地域の農業者や販売者と連携してブランド化し、湖西の豚はおいしいとか健康にいいということになれば、

養豚業者は儲かり、臭気対策も自分で経費をかけてやっていくと思うので、そういった取組みも必要ではないか。

＜座長＞

農産物のブランド化については、やっと今牡蠣のぷり丸がブランドとして育ってきたなというところ。ただ、農産物は一生懸命いいものを作っているが、まだまだ認知度が低いというところでもあるので、そこが課題である。ブランド戦略については、市も一生懸命がんばっていきたいところであると考えている。

高校生への取組みについては、確かに市内の小中高校生のアンケートで、将来は湖西市に戻って住みたいかと聞くと、半数ほどが市外に住みたいと答えている。いずれは湖西市に戻って暮らしてもらいたいというところで、よく教育委員会とも話をしているが、何かの折にまた戻って来たいなあと思うような思い出づくりが、小中学校高校生時代に必要ではないかと考えている。

施設の開放については、行政の反省として、何かを保存したいという法律でだめだというケースがある。一方で今、維持修繕費というのは予算の確保がなかなか難しいということがある。古いものはさらに古くという状態になってしまうが、「稼ぐ力」という言葉があるように、来客を増やし、維持修繕費くらいは自ら賄う時代になってきている。市役所だけの力じゃなく地域や団体の皆様の力も借りながら、市の職員ももう少し柔軟な発想をもって、法律の範囲内で知恵を絞っていったらと思う。

定住促進については、これから家庭を持つ方や子どもを持つ方、30代の方が転出してしまうという傾向がある。やはり家を建てるときに浜松市や豊橋市を選ぶ方が多いので、湖西市を選んでもらえるようインセンティブを考えていきたい。

臭気対策についても、いろいろとご意見をいただき、重要であると感じている。ただ、ご案内のとおり現在、豚コレラの問題もあり、臭気対策を進めていく上でも豚コレラの対策も併せて行っているので、臭気対策をスピードを上げて取組みたいが、そこは注意深くやっていく必要がある。

〔基本目標3、4について〕

（質疑・意見交換）

＜鈴木委員＞

子どもを取り巻く部分で社会の状況も変化する中で、湖西市独自の取組みがもう少し市民の皆さんに提供できると良い。働きたいが子どもを預けるところがないという声は多く聞く。保育園に子どもを預けて働いても、子どもが就学したときに預けるところが少ないということもある。市の担当課が別々なので、なかなか連携が出来ていないというところが問題かと思う。いろいろな取組みを行っているが、もうひとつ、子どもを一人の人間として、子どもから大人になる成長の段階でそれぞれの共通している部分をも

う少しピックアップできるとよいと感じる。

＜事務局＞

ご指摘のとおり、市の事業や取組みが市民に伝わっていないと感じているので、市民の皆さんに知っていただく取組が必要ではないかと思う。定住促進係で、子育て支援事業や住んでいただく上で役に立つ制度をまとめたリーフレットなどを作成予定であり、PRできたらと思う。

また、一人のお子さんの成長過程の中で必要となってくるものもいろいろあると思うので、その辺は点ではなく線で繋がるような施策が必要となってくる。今後総合戦略なり総合計画の中で考えていきたい。

＜高木委員＞

市内福祉施設の問題として、人手不足、労働力の問題がある。施設はあるが、労働力不足で稼働できないフロアがある施設がある。また、在宅介護支援の現場から、高齢者を抱える家庭の10%程度で働きに出られていないという現状がある。そういった方が働きに出られて、例えば福祉の仕事に就いていただければ、労働力問題の解決のひとつとなり良いと思う。

＜事務局＞

労働力不足というのは、製造業だけでなくいろいろなところで聞いている。日本全体の問題であり、考えていかなければならない問題だと思う。市としては、今のところ労働力不足解消のための事業はないが、学生の奨学金返還支援制度を現在検討しており、出来るところから対策を考えていければと思う。

＜飯田委員＞

市の施策を見ると、きっかけ作りや出会いの場、産まれてからの支援はあるが、周りの状況を見ると、女性自体が働ける場や地域の居場所、コミュニティがあるかどうかが大きいのかなと思う。湖西市は人のつながりが密な地域であり、地域の中で守られて暮らしているというところが大きないいところだと思う。女性自身が輝いて働けて地域づくりやパラレルワークや週末起業など、この地で働きながら暮らしていける環境が、地域の課題解決にもなり、その人自身も暮らしが良くなっていくと思う。

＜事務局＞

女性の働く環境というのは、職住近接を考えていく中でも大切な課題であると重々認識している。今まで住宅などの支援制度を創設したが、次の段階として来年度に向けて女性活躍についても検討している。現在ダイバーシティマネジメントなどに取組んでいるが、さらに踏み込んだ取組みが示されればと思っている。

＜柴田委員＞

地域の問題とビジネスというものを繋ぐ言葉でCSVというものがある。行政と民間がどこに落とし所をもっていくか。

湖西市商工会では、介護初任者研修を行っているが12人中6人がペルー出身で永住資格をお持ちの方。外国の方は地域への属性というより職域で移動していく。湖西市に住み、旦那さんが工場で働き奥さんが働くところがなく、介護の勉強をしている。このような方が今後非常に労働力となると思っている。近隣市からの受講者もあり、かなりの人が定住されるのかなと。外国の方が定住することは行政、地域としてもいろいろなデメリットが発生するかと思う。あとはそういった部分をどう解決していくかということをやっていけばいいのでは。湖西市は、基幹産業が製造業であり、製造業に人が集まってくる。そういった方々をどうやって違う産業に付加価値をつけて収益を上げていくかというところで、商工会もやっていきたいと思う。

＜大石勝委員＞

基本目標3のKPI中「保育園の満足度」で100%というのはすごいが、先ほどの鈴木委員のお話だと、使いたくても使えないサービスもあるということ聞いた。この満足度は、公立保育園に通っている保護者のみにとったアンケートなのか。保育園に預けられなかった人にもアンケートを行っていた場合は100%となるのかなと思った。

説明の中で最終的には自然増を目指すと言っていたが、合計特殊出生率を、例えば、10年後には2.07にするという市の思いがあつての説明なのか。

＜事務局＞

保育園の調査については、入園されている家庭に行った調査であり、実際に入園されていないご家庭の意見は含まれていない。

合計特殊出生率は、理想としては2.07だが、最終的には下降の率を少なくしたいという中で取組んでおり、少しでも率を上げていきたいという取組みを考えている。

(2) 総合戦略事業の削除及び新規掲載（案）について

＜事務局＞

説明 資料3：湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略削除事業及び新規掲載事業（案）
一覧

湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略

＜各委員＞

意見、質疑特になし

(全体を通して質疑・意見交換)

＜竹田委員＞

効果測定というのは、数値目標やK P I にストレートに施策の効果が現れるものではなく、他の要因が入ってきてしまって、はっきりとすぐには現れないものも多いと思う。他の要因がどのように働いたのかを分析して最終的な評価を考えるべきだと思う。

＜竹島委員＞

出生率の関係で、1.54となっているが、いろいろ分析してみても晩婚化が進んでいることとそれによりお子さんを産むリスクが高くなるということが出生率に影響しているのかなと感じる。結婚しない人が非常に増えているということも聞くので、その辺は分析をしてやっていかないといけないと思う。

防災の関係で、避難所になっている中学校を使って避難訓練、宿泊訓練をやることも市として取組んでいただきたい。

＜高木委員＞

福祉や医療の分野で貢献できることがあればと思うので、いろいろ伺って今後検討をしていきたい。

＜柴田委員＞

産業部門として出ているが、産業部門は非常に今苦戦をしていて産業部門だけでは解決できないことが多いと感じている。いろいろな分野に出て行った中でそれがビジネスに繋がっていけばという思いで参画をさせてもらっている。

＜鈴木委員＞

子どもの貧困問題でも、出産後に少し子どもと離れたいという理由での一時預かりがすごく増えているのが現状。働いている親だけが保育園を利用しているのではなく、困り家庭の保護者を見ていかなければならないことが増えているという状況を、今後の事業の展開の中で湖西市で考えてもらえたらと思う。

＜飯田委員＞

今の湖西市の現状、また、5年後10年後を考えるということを市民にも意識してもらうことが必要なのかなと思う。市民の皆さんの活躍によってもっと輝くものにしていけると思うし、自分も湖西市に転入してきた一人として、近隣市町にはない魅力がたくさんあると思うが、それが周辺地域に届いていない。現在もいろいろと取組んでいるのは承知しているが、もっともっといい部分がP Rできるとよい。それには市と民間が市民協働で、いい意味でタッグを組みながら地域づくりをしていけると良いと思う。

＜大石倫委員＞

後継者がいない、事業継承に困っている、あるいは資金繰りに困っているという企業の話や、相続対策どうしようという老後を心配する個人のお客様など様々な話を聞く。そういった声をこういう場で伝えながら、いい方向に進んでいければと思う。

＜是永委員＞

労働部門として意見を述べながら、近隣市町よりも1つでも多く魅力ある長けたものをつくれればと思っている。市外からの通勤者が多いが、何かの縁でこの地に勤めているので、思いをもって勤めてもらうよう協力していきたい。

＜大石勝委員＞

評価において、目標となるアウトカム指標と施策目的そのものが完璧に一致することはほとんどないので、評価に対する分かりやすい説明を加えていくということも必要である。特に、基本目標2の数値目標はアウトカムが設定されており、KPIは中間アウトカムの指標が設定されているので、そうした体系に応じた説明をすると、市民の方も分かりやすくなると思う。

5 連絡事項

・次期総合戦略の策定方針について

＜事務局＞

現行の総合戦略は計画期間が5年間であり、本年度が最終年度である。本来であれば、国、静岡県に合わせ、次期総合戦略を策定するところではあるが、次期湖西市総合計画においても、人口減少対策は必須の施策となることから、現行の総合戦略を1年間延長し、総合計画に総合戦略を融合する形で、策定を行いたいと考えている。延長案については、検討し、今年度中に再度未来ビジョン会議を開催し、ご意見をいただきたい。

6 閉会